高等学校の修学旅行 ―最新リポート―

社会や自然と向き合う中で

大阪学院大学高等学校
沖縄、ほか2方面　4泊5日
10年2月　実施

大阪学院大学高等学校（大阪府吹田市）は、「明朗・努力・誠実」をモットーに、社会に貢献できる人材の育成に取り組む私立の共学校。観光系の学科であるホスピタリティ経営学科を持つ大阪学院大学の系列校だ。コースは、普通コース、特進コース、国際コース、情報コース、スポーツ科学コースの5つがある。

修学旅行の行き先は、コースによってカナダ、北海道、沖縄の3方面に分かれる。カナダへは、語学研修が目的で、国際コースが参加（1年留学する生徒は除く）する。北海道は、スキー、スノーボード研修が目的。スポーツ科学コースは必ず参加し、普通コースと特進コースは沖縄との選択制でどちらかを選ぶ。沖縄へは、文化の違いに触れる観光が目的。普通コース、特進コースのほか、情報コースが参加する。

沖縄ではひめゆり記念館で平和学習も

同校では以前、国際コースを除く全コースで、北海道のスキー修学旅行を実施してきた。しかし、スキー研修を嫌がる生徒がいたため、普通、特進コースの生徒は、沖縄も選択できるようにした。選択制で、中学校と高校の修学旅行の行き先が同じになることを避けられる。また、生徒の状況に応じて行き先を変更できるメリットもある。北海道でスキー研修を受けるつもりの生徒がクラブ活動で負傷し、スキーができなくなったことがあったが、沖縄に修学旅行に行き先を変更して、高校生活の思い出となる修学旅行に参加できた。

浅利智教頭

海外での修学旅行を、国際コースのみ実施しているのは、国際情勢に影響を受けやすいからだ。過去に一度実施した韓国での修学旅行では、SARSの問題などで、生徒の保護者たちから「海外旅行は不安だ」と心配する声が多かった。

実施時期は、国際コースが第2学年の10月。そのほかのコースは、第2学年の2月。

今年の北海道修学旅行は、2月22日から26日まで4泊5日で実施。雪質が良いことで海外でも有名なルスツ高原で、スキー、スノーボードの実習をじっくりと行った。

スポーツ科学コースは、2日目に雪上安全講習を受講。最終日はスキー、スノーボードの技能テストに挑んだ。普通、特進コースは、選択制によって希望した生徒ばかりなので、みんな真剣にスキー、スノーボード研修に取り組み、ウインタースポーツの楽しさを満喫できた。最終日は小樽で市内の散策を行った。

沖縄の修学旅行も日程は北海道と同じ。沖縄を選んだ理由は、本土とは異なる独特の文化があるため。観光を通して、文化の違いを生徒らに楽しみながら学んでほしいという狙いがある。また、暖かい気候なので、寒さが苦手な生徒にも人気だ。

1日目は、沖縄のテーマパーク「おきなわワールド」で沖縄の伝統の踊りエイサーを見学した。見学時に太鼓の演奏を促されると、普段はおとなしい生徒が自ら進んで舞台に上がる場面も見られ、生徒の積極性に教諭陣が感激したという。生徒に人気だったのは、美ら海水族館。世界最大級の水槽で泳ぐジンベイザメやオニイトマキエイ（マンタ）などに歓声があがった。

カナダのメープルリッジのカボチャ畑での記念写真

北海道でスキー・スノーボード研修

情報コースは、2日目すべてタクシーを使った班別研修を実施した。事前学習で各班が作成した班別研修時の観光プランにそって行動した。

情報コースの生徒は、画像処理、CG（コンピューター・グラフィックス）制作を普段から学んでおり、コンピューターに精通している。彼らの特性を生かして、「インターネットを使って沖縄の観光情報を収集し、観光プランを考えること」が、修学旅行の学習プログラムの1つとなっている。

この班別研修では、ガラス工房での琉球ガラスの手作り体験といった体験型プログラムを中心にしたり、旧海軍の指令部壕を見に行く平和学習をテーマに回ったりと、班ごとに個性が表れたという。

由布島で水牛車に乗り海を渡る

3日目は首里城の見学の後、那覇市内のメーンストリート国際通りで自由行動。行動範囲を国際通りに限定したので、生徒は迷うことなく安心して散策を楽しんだ。土産も購入し、昼食は各自で好きな飲食店で取った。夕方、飛行機で石垣島に移動。

4日目は石垣島を含む八重山諸島の離島めぐり。西表島では、仲間川で遊覧船に乗り、日本最大規模のマングローブ林など、雄大な亜熱帯の自然を間近で見た。由布島では、約400㍍の遠浅の海を水牛車に乗り海を渡った。ゆったり、のんびりとした由布島の風景や水牛車を曳く水牛の力強さに感動したという。石垣島に戻った後、ミシュラン旅行ガイドで3つ星の川平湾でグラスボード体験も実施した。

5日目は竹富島でサイクリング。竹富島には、国の重要伝統的建造物群保存地区がある。八重山諸島の昔ながらの町並みが残る島を観光した。

浅利智教頭は「修学旅行は、いずれの行き先を選んでも、家庭を離れて共同生活を送るという体験は同じ。仲間とともに過ごすことで人間的な成長が期待できる。カナダ、北海道、沖縄の非日常の世界を知ることは、生徒たちの人生にとって、とても大きな経験になっている」と話す。

非日常を知ることは人生での大きな経験

兵庫県立 須磨友が丘高等学校
鹿児島県奄美大島　3泊4日
10年1月　実施

兵庫県立須磨友が丘高校（兵庫県神戸市）は、平成14年度に普通科から総合学科となり、「キャリアプランニング」「社会人としての基礎力習得」「多様な選択科目などによる特徴的なカリキュラム」などを学校の特色として挙げる。3年間の学校生活では、「自分で課題を見つけて、自分で解決していく力」を養うことを目標としている。

今年の研修旅行は奄美大島で実施した。今回で3年目。同校の研修旅行では、各自がテーマを決め、研究してきた「奄美大島の自然、文化、産業等」を研修旅行で深めることを目標としている。

竹内弘明校長は、「生徒は事前学習で興味を持ったことを研究し、現地では現地で学んだことや成果、感想などをまとめて提出する。そうすることで、『自主的に学ぶ力』を身に付ける」と話す。

竹内弘明校長

3年前、同地では初めてとなる研修旅行に向けて、事前視察をした大江ど、何より人が温かい」と好印象を持ったという。さらには、体験プログラムが豊富にある、島の端から端までバスで約2時間と移動に時間がかからない、などの理由から、奄美大島を研修旅行の行き先に決めた。

今回の研修旅行でも、事前学習を2年次の4月から約半年間実施した。生徒たちはグループに分かれ、奄美の文化、歴史、自然、生活、芸術など自分の興味があることについて各自で調べた。

事前学習の一環で、奄美大島出身の旅行会社の社員から島の自然や文化などの話を聞いた。説明会では、終了後に生徒たちから「奄美の方言や伝統、特産品などに興味が持てた」「自然に触れ合えることが楽しみ」などの声が聞かれ、生徒が自発的に奄美大島へ興味を持つきっかけとなった。

研修旅行の日程は、1月19日から22日までの3泊4日。3年生の6クラス、230人が参加した。

初日は、伊丹空港から直行便利用と鹿児島での乗り継ぎ便利用の2班に分かれて出発。奄美空港到着後、奄美の自然、文化を紹介する、博物館と美術館の複合施設「奄美パーク」を見学する。奄美の自然や暮らしの様子を、模型や映像などで学んだ。その後、奄美大島の東北端のあやまる岬へ移動し、クラス写真を撮影した。岬から眺める珊瑚に囲まれた美しい海に、生徒たちは感動していたという。

夕食は郷土料理の店へ。独特の雰囲気の店内でトビ貝や油ソーメン、鶏飯など奄美ならではの料理が出され、生徒は普段以上に食が進んでいた

金作原原生林でトレッキング体験

ばしゃやま村で島唄体験

自ら課題を見出し解決する力をつける

加計呂麻島の特攻艇「震洋」

奄美パークで島の暮らしを学ぶ

大島紬の泥染めを体験

泥染め体験でオリジナルハンカチ作り

美の自然や暮らしの様子を、模型や映像などで学んだ。その後、奄美大島の東北端のあやまる岬へ移動し、クラス写真を撮影した。岬から眺める珊瑚に囲まれた美しい海に、生徒たちは感動していたという。

夕食は郷土料理の店へ。独特の雰囲気の店内でトビ貝や油ソーメン、鶏飯など奄美ならではの料理が出され、生徒は普段以上に食が進んでいた

図れ、奄美の文化にも触れることができた。この日は、「コーラルパームス」と「カレッタハウス」の2つの宿泊施設に分宿した。

2、3日目は、奄美大島の自然・文化体験を行うクラスと平和学習・海洋実習を行うクラスの2グループに分かれ、1日ずつ交互に行った。

自然・文化体験では、生徒が「ダイビング、シュノーケル」「トレッキング」「大島紬、釣り」の3種類から希望のコースを選択した。ダイビングとシュノーケルの体験では、透き通った海の美しさや、海ヘビ、ナマコなどの珍しい海の生物を見て感動する生徒が多かったという。

トレッキング体験は、亜熱帯のジャングル、金作原（きんさくばる）を歩くエコツアー。20㍍近くにも育ったシダ植物「ヒカゲヘゴ」など原生林の植物を間近で観察した。

奄美の伝統工芸に触れ

泥染めに挑戦。生徒からは「普通なら汚れそうな泥で美しい茶色に染まるのが不思議だった」という声も聞かれた。

平和学習では、海上タクシーに乗り、加計呂麻島へ。太平洋戦争中、特攻隊として島に滞在した第18震洋隊の基地跡や隊長として赴任した小説家の島尾敏雄文学碑などを見学。平和の大切さについて学んだ。

海洋実習は、奄美群島国定公園特別保護地区のマングローブ原生林に隣接する「黒潮の森マングローブパーク」でのカヌー体験や半潜水艇グラスボート「マリンせと」での海洋実習を行った。黒潮の森マングローブパークでは、淡水魚のアユの一種の「リュウキュウアユ」など、奄美大島にしか生息しない生物や植物などを知り、生徒は環境問題へも興味を持つという。ほかにも、ハブのショーなどを行う「原ハブ屋奄美」では、ハブの生態や捕獲方法など詳しく知ることができた。

最終日は、奄美の歴史と文化を体験できる「奄美リゾートばしゃ山村」で陶芸、島唄、塩、黒糖作りなどを行った。島唄体験では、生徒らは「島人（しまんちゅ）の奄美を誇りに思う心や方言の美しさを感じた」などの感想を持ったという。

竹内校長は、「奄美大島の研修旅行は豊かな自然、文化、歴史、人との交流の中で、人間的に成長できる機会。生徒たちは、奄美大島独特の自然、文化などを知り、自然環境問題や地域文化の伝承、伝統産業など新たな興味を持つ」と話す。奄美の温かい人柄に触れたことで、生徒は今まで以上に素直に「ありがとう」と言える感謝の気持ちが芽生えているという。生徒の満足度も高いことから、来年の修学旅行も奄美大島で実施する。

学習旅行は、オールシーズンで体験できる志賀高原・北志賀高原へ!!

志賀高原・北志賀高原は、スキー学習旅行の受け入れの歴史が古く、全国トップの利用をいただき、オールシーズンで充実した学校生活形成の一端を担わせていただいております。

大都市及び周辺では得られない豊かな環境を生かした、安心で安全な自然体験学習ができるよう引き続き努めてまいります。

■志賀高原「日常を忘れ、大自然を心から満喫。」

志賀山・横手山・岩菅山など 2,000m級の山々を控えた自然の宝庫、志賀高原。大小 70 余の美しい湖沼や湿原が点在しています。

「池めぐりコース」や「やまびこコース」など全 19 あるトレッキングコースでは、手軽に雄大な自然に触れることができ、自然環境学習に最適な高原です。

■北志賀高原「美しい自然と素朴な山里が心を癒す。」

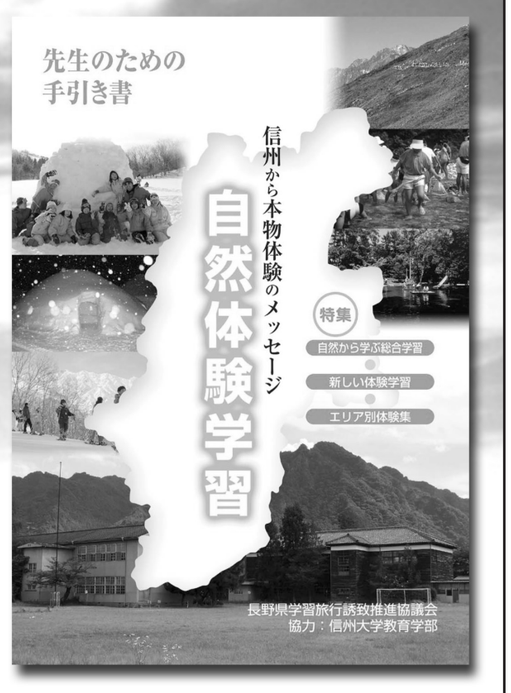
標高 1,930mの竜王山、別名「高井富士」と呼ばれる高社山の山麓に広がる大自然は、さまざまな花や高山植物が可憐な姿を見せてくれます。さわやかな風が流れる豊かな山里は、果樹園や田園が広がり、素朴であたたかな伝統に触れることができます。

お問合せ　長野県学習旅行誘致推進協議会
山ノ内町支部　事務局
TEL：0269-33-1107　FAX：0269-33-1104
http://www.gakushukyo-y.net
〒381-0498　長野県下高井郡山ノ内町大字平穏 3352-1

年間2700校以上にご来県いただいている

信州・長野県への学習旅行は

「長野県学習旅行誘致推進協議会」は、信州・長野県観光協会内に事務局を置き、国内外を問わず、長野県への学習旅行のご案内をさせていただいております。下記まで資料請求等お問合せをお待ちしております。



お問合せ・資料請求先
長野県学習旅行誘致推進協議会 事務局（担当:中澤）
TEL:026-238-9670　FAX:026-232-3220
E-mail:gakushu@nagano-tabi.net
http://www.naganoken-gakushuryoko.net
〒380-8570（住所不要です）
長野県庁東庁舎2階 信州・長野県観光協会内

上記冊子「先生のための手引き書」（ワークシートつき、全32頁）を無料にて差し上げています。